



ぬくもり

10月号

No. 38

[平成20年10月15日発行]

「心豊かな活力とうるおいのある住みよいまち・可児」を!



(秋は読書で!)

家族のきずな

心・の・そ・だ・て

それで! どうして!
大きくふくらむ、やさしい心
そう! 夢をもってね、大きくなってね
いつもいつも、心は一緒だから…。

平成19年度小6年生人権標語から

(現中1年生)

見分けよう
正しいことと 悪いこと

(今渡南 吉良侑澄)

だいじょうぶ、
こころにとどく その言葉

(南帷子小 松井千砂輝)

一人では、
かかえこまない なやまない

(春里小 松村彩音)

その言葉
自分が言われて どう思う

(桜ヶ丘小 岩城健吾)

目次

- 平成20年度前・後期活動あらまし (講演会:12/7 辻イト子 ご案内 他).....②
- 〈シリーズ特集: (邪まな心の追放を)〉子ども達からの訴え!.....③
- コーナー.....④
 - 壁の箴言(あなたは知っていますか?)—四川地震での学校の黒板の字
 - 投稿だより(心田への薫風)—環境は人権(ささゆりクリーンパーク):可茂衛生施設利用組合事務局長 奥村幸彦
 - 心のビタミン ●(県)人権フェスティバル開催ご案内 他 可児市教育研究所所長(教育課長)松岡秀明

発行

可児市人権啓発センター(可児市総合会館分室内)

〒509-0203 可児市下恵士5166-1 TEL/FAX 0574(63)7990 H・Pアドレス <http://www.city.kani.lg.jp/>(リンクIN)

平成20年度 前・後期活動のあらまし

後期計画(10~3月) やります!

平成20年度 人権週間(12/7~10) 啓発企画

可児市人権啓発センター

ぬくもり講演会

あの! 涙肉、温泉CMで おなじみ!!

浪速の **テレビCM女王** (50本あり)

辻い子

母の涙で 希望を笑いどちよ...
「母が泣くたびに泣いてはならない」

平成20年 **12/7(日)**
開演 13:30 開場 13:00
可児市文化創造センター 小劇場
無料 定員300名
申込み 9/1(月)~10/31(金)

日時 12月7日(日)
13:30(開演) 13:00(開場)

場所 可児市文化創造センター(小劇場)

定員 300名

申込み 9月1日(月)~10月31日(金)

募集中 (~10/31まで)

1通で2名まで記入可

〒5000203
住所 可児市下恵土5-1-66の1
可児市人権啓発センター 行
可児市総合生涯学習センター内

※何も記入しない

(左) (右)

電話番号(代表のみ)
参加者氏名
①氏名 (自分(代表)の名前)
②氏名 (ある場合のみ)

※託児、車椅子の希望のある方のみ明記してください。

※当日この葉書持参

(左) (右)

人権相談室・常設展示室

(本センター隣室に設置)

人権相談 <受付中>

11/初 オープン予定

- ・コーディネートします!
- ・電話申込み(9時~12時)
Tel. (63) 7990
- ・(月)~(金) 休日(土・日・祝日)

展示室

順次オープン

~展示内容~ (例)

- ・人権とは?
- ・人権の歴史
- ・人権の今
- ・あなたに望むこと
- ・子どもコーナー

前期実績(4~9月) やりました!

満員御礼

8/22 ぬくもり講演会(フォーラム)

テーマ: 今一度家族について考えてみませんか



それぞれの家族に和楽を!

報道

- ・一般紙(中日)
- ・ケーブルテレビ可児

○映画「母」鑑賞

監督: 松山善三

「生きる力の、大切なことを知る」

○フォーラム登壇者

- ・小藤 三雄(元中部中学校長)
 - ・大山 弥生(市PTA連合会代表)
 - ・柏木 雪美()
 - ・渡邊 圭祐(西可児中2年生)
 - ・柳瀬 郁乃(広陵中2年生)
 - ・日比野雅子(当センター会長)
- 「考えさせるご意見に感謝」

映画

親子の信頼関係が、根底に合ったからこそ、たとえ母親からつき放されても母の真剣に生きる姿から、子どもは生きるエネルギーを学びとっていったのではないのでしょうか。 小野口裕子(愛岐ヶ丘)

フォーラム

社会で最も小単位は、家族であり、仲よくすること、小さなことを大事にすることが全てに通じることを改めて実感。子どもさん代表の考えに、拍手! 母さん代表に納得! 宮川静香(羽生ヶ丘)

6/28 研修会(平和) 役員・推進員



「戦争は、最たる人権侵害」 館内視察

- ・立命館大学(京都)
- ・平和ミュージアム
- ・館長「高杉巴彦」氏から講話(30分)
- ・館内視察

出前講座常時受付中 人権講話

4~9月 お話をさせてもらいました

- ・小中学校(市内・外)教師へ
- ・家庭教育学級へ
- ・地域自治会有志の会へ

6/11 「裁判員制度」研修



- ・人権に係わる質問書を提出(4問)
- ・地方裁判所から回答頂く

・「法の下での平等」から障がい者対応は、ぬくもりある対応を!

7/28 同和研修会(県)

- ・「人権は、生まれながらに持っている」とされる権利

8/15~9/15

人権の育み

ぬくもり「標語」と「300字小説」募集終了!

- (結果) 応募者総数 1,213人
- ・応募者内訳
小学生 908人 中・高・一般 305人
標語 1,053人 300字小説 160人
- ・入賞審査(~10/7) 入賞発表(~10/末:入賞者のみ当人宛通知、小・中学生学校宛)
- ・入賞作品 12/4~10(人権週間)市役所ロビー等展示・機関紙「ぬくもり」2/15号掲載

市内(全)小・中学校(公・私立)ご投稿多謝。
(人権同和ご担当教師に感謝)

シリーズ特集

～^{よこし}邪まな心の追放を～ (子ども達からの訴え)純粋な子ども達の心を裏切らないために!



- 毎月のように大人達の「偽装、偽善等」が起こる。大人が自ら平気でやってのける邪まな事が多い。このことで手本となる大人達の姿に、子どもは、あわてだしているのだ!
- 子どもの未来をどうするのか。だれがどのようにして守ろうとしているのか。
- 自分達のことばかりで、子ども達のことなど、考えていられないのか。
- 子ども達は、「鈍感な大人達の間接」と言いながら、あきれ果ててしまっているようだ。自分達大人がつくった世の中に自分達が疲れ果てて、いていいのか。子ども達に夢と希望を持てる世相づくりこそ大人の責任であるはずだ。

(編者)

第2回は、子ども達から、大人達へのメッセージを、取り上げました(子どもの人権のために)

〈調査報告〉第2弾 しっかりしてよ、大人の皆さん! 子どもから、このことを言いたい!

＝シャワーワード 編集＝ (意を汲み取り、考えてみて下さい。) (一部省略・再編有)

「伝説のスピーチ」12歳少女の訴えから

(解説)

'92年6月、ブラジルのリオ・デ・ジャネイロ国連「環境サミット」。カナダの日系4世(12歳の少女)セヴァン・カリス＝スズキが世界の首脳を前にスピーチ。旧ソ連のゴルバチョフ元大統領(ベレストロイカ:ノーベル平和賞受賞)米国のゴア元副大統領(映画「不都合な真実」:ノーベル平和賞受賞)等のスピーチが終ったとき、涙を流し立ち上がった!後に「伝説のスピーチ」と言われるようになった。

- どうやって直すことがわからないものを、こわしつづけるのは、もうやめて下さい!
- 学校で、いや、幼稚園でさえ、あなたたち大人は私たち子どもに世の中でどうふるまうかを教えてください。たとえば、
・争いをしないこと ・話し合いで解決すること ・他人を尊重すること ・ちらかしたら自分でかたづけること ・他の生き物をむやみに傷つけないこと ・わかちあうこと ・そして欲ばらないこと
(このようなことを教えていながら、なぜ)あなたたちは、私たちにするなということをしているんですか!!
- なぜあなたたちが今、どうして会議に出席しているのか、どうか忘れないでください!
そして、いったいだれのためにやっているんですか。
それは、あなたたちの子ども、つまり私たちのためです。
みなさんは、こうした会議で、私たちがどんな世界に育ち生きていくかを決めているんです。
- 親たちはよく「だいじょうぶ、すべてうまくいくよ」「できるだけのことではしてるから」「この世の終わりじゃあるまいし」とか(言いますが)しかし大人たちは、もうこんななぐさめの言葉さえ使うことができなくなっているようです。
お聞きしますが、私たち子どもの未来を真剣に考えたことがありますか。
- あなたたち大人がやっていることのせいで、私たちは泣いています。
- あなたたちは、いつも私たちを愛しているといいますが、しかしいわせてください!
もしそのことがほんとうならどうか、ほんとうだということを行動でしめしてください!!

小6年生人権標語から(H19年度)

- 絶対に やっちゃだめだよ 見ないふり(旭小:橋本 愛生)
- 見てるなら 勇気をだして 声かけよう(今渡北:山田 隼也)

公共広告機構「こもど委員会」から

今私達は、学校や家や、友達や将来のことなど、いろんな悩みを持っています。その中で私たちがどんなことを思ったり、考えているか知っていますか。

私たちは私たちがなりにいろんなことを思ったり考えたりして、その意思も持っています。(中略)私たちが悩んでいることを、一緒に考えて欲しいのです。

- いそがしく働くのは、何のためですか、それで世の中は、よくなるのですか?
- 大人も、まちがいがあふれるのだから、しっかりとあやまって下さい。
- ぼくたちの心の中には、ほんとうの気持ちがあります!聞いてほしいです。
- ぼくには、ぼくのやることがあるのです。他の人と比べるのはやめて下さい。

市内中学2年生の発言から

- 私たちは、これから、70年ぐらい生きていくのです。この先本当に大丈夫ですか!
大人のあなたたちは、私たちに何を残してくれるのですか!
こんなことでは、問題ばかりになりませんか!私たちにだって、判りますよ!

当センターからの願い(敬語略)

～子どもと共に、小さなことから～(子ども人権教育より)

家庭の家族へ

食事をできるだけ一緒にとることに努めて!
子どもの前ではけんかしないで!

地域の方達へ

行き合う子には笑顔で率先してあいさつを!

学校の先生へ

教科の中であなたの体験を話してやって!

心のビタミン 新刊購入図書から

📖 老いカ(おいちから)

佐藤愛子 著 海竜社

・老年は、人生最後の修業の時
・孤独に耐えて立つ老人になりたい
内野登代子撰

📖 「青春」という名の詩

宇野 収 著 産業能率大
作山宗久

・青春とは、人生のある期間を言うのではなく心の様相を言うのだ。(中略)
時には、二十才の青春よりも六十才の人に青春がある。
年を重ねただけで人は老いない。
人は信念と共に若く自信と共に元気に溢れる。
希望ある限り若く、青春であり続ける。
「サミュエル・ウルマン青春」より
和田昭治撰

📖 いのちと勇気のことば

日野原重明 著 こう書房

・あなたが生まれたとき
まわりにいた人たちが
どれほど幸せにつつまれたか
想像したことがありますか
天野弘子撰

人権啓発図書貸出し中

平成20年度 (県)人権フェスティバルinぎふ

ご参加お待ちしております!

- 日時: 11/29(土)13:00~16:50
- 場所: 県民文化ホール 未来会館
- 内容
(長良川ホール)13:00~16:50
・全国中学生人権作文コンテスト岐阜県大会 (表彰式及び朗読)
・人権創作劇「メロアの灯」八百津小学校
- ☆人権講演会
「家族の絆〜感謝の気持ちを言葉にしよう」
講師 荒木由美子(タレント)
- 応募方法: 入場整理券①一往復ハガキで11/7(金)まで
宛先(〒500-8570岐阜市数田町2-1-1)
岐阜県庁人権施策推進課(Tel. 058(272)8250直)
- 〈企画展示室〉12:00~17:00
・人権啓発パネル展示など
- 〈小会議室1〉13:00~15:00
・特設人権相談所
- 〈アクティブG2FGストリート〉12/1(月)~12/15(月)
・小中学校人権作品展

「誠実さと神々しさとは」
中国の恩家玉総理は、四川の地震現場で即座に陣頭指揮を執られた。慈父のごときに、中学生たちを激励しながら、教室の黒板に大きく「多難興邦」(難が多いほど、奮起して国を興す)と書いた。国の棟梁として、多難は痛恨の極みであらう。でも、被災者が、めげずに、ともに立ち上がってほしいとの「長の一念」なのだ。そして不屈の頭を上げ、不屈の背筋をはれ! 灼熱の心を燃え立たせ、明日のために、希望をみなぎらせて、前に向かって邁進しよう! と未来の中学生に呼びかけたのである。
いかなる苦難をも断固として勝ち越えてゆく知恵と勇気を奮い起こすことは、至難ではあろうが、そこでお未来をみつめて激励されているレジデの姿は、切々たる中に誠実さと神々しさを感じた。(編者)

投稿日より 心田への薫風

地域の「Education」から見えるもの
可児市教育研究所長 松岡秀明 (学校教育課長)
先日桜ヶ丘小学校を会場に、PTAや地域の方々が主催するキャンプの様子を聞く機会があった。当日は、小学生や中高生そして大人が交じった交流があったようだ。その中で、夕食づくりなど小学生には少し荷が重い仕事も、中高生が大人と共に活動し、児童からは頼りにされ、大人からは感謝の言葉をもらって、とてもいい顔をしていたとのことだった。また、夜は自分の将来のことを語り、地域の方からは若いときのころ、今を大切にすることが将来の夢につながるなど、お互いが心を開いた語り合いができて涙ぐむ感動体験もあったようだ。
可児市が推進する教育プラン「Education」の実践が地域の手によってなされていることを強く実感した。現代の青少年は、「自分もみんなのために役立つ」という自己存在感や「自分を大切に」自尊心が弱いと言われるがこの活動を通して、地域が育む青少年の姿を見ることのでき、とても嬉しかった。

環境は人権
可茂衛生施設利用組合事務局長 奥村幸彦 (ささゆりクリーンパーク)
本年7月に洞爺湖サミットが開催された。地球温暖化対策として、環境の問題が大きなテーマとなった。
過去、環境問題は、公害対策であり、また快適な環境づくりが課題だったが、現代では、持続可能な地球環境問題が軸となっている。
環境の保護は、自由であること、平等であることなどと共に「安全な環境」が人間にとって基本であり、その意味で「人権」であると言われている。
あのツバルの島の現状や、北京の灰色の空が極めて象徴的だが、G8だけでなく世界レベルでの気候変動や自然環境への課題となっており、さらに人間以外の生物の生存とも関連が必要である。この「人権」は、グローバルであり、時代(世代)をまたぎ、生物の環境をも含む、今までにない要素を内包している。
可茂地域の皆さんの一般廃棄物処理とこの当組合の仕事に対し、「環境は人権」であるとの認識のもと、少しでも負荷の軽減をはかるべく安全な運営を進めていく。

編集後記(書苑のひかり)
今年も同じ道端で小さく咲く野菊の白い花を見つけました。早いものでもう秋になりました。一日は百代の過ぎにして、行かふ年も又旅人也と芭蕉は歌った。
中国の李白も、また「夫れ天地は万物の逆旅にして光陰は百代の過客なり」と歌う。
人はそれぞれの道を一生生きぬかねばならない。けっして同じ道ではないのだ。だから一人では、生きていけない。そのために、社会がある。地域があり、そして家庭があるのだ。このことから家族はもちろんだ。他人を大事にしなくてはならない。そしてその心根には、相手を思う互恵(奉仕し合う)・慈悲(同苦し合う)・愛の精神(分かち合う)が必要なのだと思ふ。
今年度も後半に入ります。当センターも皆さまと心に残ることを懸命にやっています。
(編集者: 川手晴猛)

本センター日程 (10~3月)



- 10/2 「人権週間の取り組み」について
ケーブルテレビ可児/FMでんでん
出演: 斎藤美智子推進員(10/4~10項放映)
- 11/初 相談室 & 展示室オープン
- 12/4~10 ぬくもり標語、300字小説展示
市役所ロビー内
- 12/4 人権街頭活動(ハロー店他)
- 12/7 ぬくもり講演会(アラー)
- 2/15 ぬくもり2月号発行

「花を植えることは生命を植えること。」